

## 令和6年度協同農業普及事業外部第三者評価会議

### 普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言

#### 1 普及指導活動の体制について

(課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む)

JAや自治体をはじめとする地域の関係機関との連携なくして取り組めない課題が多くなっている。その連携をつくり出すこともあれば、要請・提案を受けて連携するケースもあるとみられる。こうした連携については、普及の貢献部分を切り出して評価することが難しくなっている。

指導というよりも優れた技術や経営の能力をもった地域の人材（人財）を活かして普及活動を進める段階に入ってきたとみられる。

こうした段階では、組織間の連携を形成する能力やひとのネットワークを形成して調整する能力が必要となってくる。それに相応した普及員の育成が求められるのではないかと。

自分の考えをしっかりと持つことは大事ではあるが、どんなことでも様々な考え方があっても事実である。「農業は厳しく、覚悟のない者にはできない」といったような考え方で固定してしまえば、緩やかな働き方を求める「若い人材」を農業に引き込むことは不可能になってしまう。様々な考え方を持った人を、どのような仕組みで就農しやすくしていくかという視点での取り組みも必要である。

ターゲットの幅を広げて、タイプに合わせた就農パターンを作っていくという取り組みこそ大事なのではなかろうか。

農業改良普及課における普及指導員の年齢構成を見ると20代、30代もそれぞれ全体の2割以上いて、若い世代の人材育成がある程度は順調に進んでいると感じた。今後はさらにIT、AIの導入など新技術の普及に向けて専門的な知識を持つ民間会社との連携が必要と思う。愛知県にはスタートアップの一大拠点ができるので、農業に役立つ新技術を扱う入居新興企業とのコラボを探してほしい。

少ない指導員さんで、たいへんなお仕事をされていると思った。県も、農業を大切な産業と考えるなら、もっと人員を増やし、深く継続した仕事をしやすくしてほしい。普及指導活動に当たり、一人が多くの生産者対応を行わなければならない一定の要員の確保が必要と思われる。近年、200名を超える職員が配置されていますが、4割が50歳という現状となっている。一方で、40歳代が2割弱と少なく、10年後、ベテラン職員の減少が予想されます。年齢構成バランスを考慮した職員配置をお願いします。

今年度、積極的にDX研修などを実施され職員育成研修を実施されています。関係団体職員とのコミュニケーションならびに相互の資質向上のためにも、研修の相互利用なども検討してみてはと考える。

もっと農家に出向き現場の意見を聞くといいと思う。

普及員が、複数人でチームとして取り組める体制づくりの推進。

技術指導と経営指導を分け、それぞれの専門家と普及員と話す機会を持ち、普及員の知識・意識をサポートする研修の必要性を感じる。

経営戦略と働き方についてそれぞれの部会ごとに新規就労者に説明できるよう、社労士・経営コンサルなどと連携し、たたき台をつくる必要があると考える。

## 2 普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

<p>課題の設定や対象の選定については概ね妥当とみられる。</p>
<p>ここ数年の報告や課題からは、土地利用型農業の担い手と組織構造に関する取り組みが（少）ないと思われる。愛知県の強みである花卉園芸の部門あるいは果樹作についてのテーマ設定が多くなる傾向にある。ある程度仕方がないことであるが、既存の稲・麦・大豆の生産構造・組織構造に問題がないわけではなく、水田野菜や飼料作物の導入などにおいてもこうした分析が不可欠となる。</p>
<p>課題の選定において、「波及効果の大きさ」も要素とすべきではないか？</p> <p>毎回出てくる議論ではあるが、1軒の農家の売上が向上したとしても、それが周囲に広からなければ、愛知県全体に与える影響は少ない。課題選定の際には、「これがうまく行けば、愛知県全体でこれぐらいの収益増が可能になる」というような仮説を立てて、効果が高いものに重点的に取り組むという考え方が必要だと思う。</p>
<p>花き部門における県域の取り組みとして光を用いた病虫害防除技術の確立を設定したのは、好判断だと思う。働く人の負担軽減、気候変動による高温への対応は、すぐに具体化するべき課題といえる。また、消費者のSDGsへの関心が高まる中、化学農薬の使用回数を減らすことはいずれの部門でも求められており、その意味でも重要な取り組みだろう。</p>
<p>個選、個販農家を対象にした指導は難しいが、特に若い農業者にとっては大変重要な指導と期待できる。</p>
<p>耕作放棄地の対象として定年帰農に力を入れ、とても丁寧に指導をしている。</p>
<p>多くの課題に取り組み、活動を着実に進めてみえると思います。</p>
<p>愛知県の農業振興に基づく普及戦略として、将来を見越した県域単位で取り組むべき方向・課題（例：一体的支援プログラム、みどりの食料システム戦略、あいち農業イノベーションプロジェクト、現場フィールド活用型イノベーション）を取組事項へ落とし込み、計画および目標策定をお願いする。</p>
<p>鉢物課題は適切であると思う。力のある地域への計画ではなく、どの地域にも対応し得る計画の立案を望む。</p>
<p>ナス部会については、「自分の子どもには継がせられない」という言葉の通り、日々の就労の中で収入に対する費用対効果の低さを実感しているのだと言える。この方のように定年帰農者をターゲットに就農を推進するのであれば、そのメリットをもっとアピールすべきなので、それに沿った計画を作成するべきではと思った。（例えば健康面や、年金を受け取りながらの働き場所として等）指導者としては、素晴らしい方だと思うので、この方がお気なうちに体制を整えることが出来たらと思った。</p>
<p>農家からは普及指導活動の計画が見えづらい。もっと普及員からの発信があってもいいと思う。</p>

### 3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

<p>特段の問題は見当たらないが、最初に普及活動のターゲットにする経営等の見定め、その後の面的な広がり展開戦略を普及の方法論としてまとめておく必要があるように思える。</p>
<p>どこに照準を合わせどのように横展開するかは、普及の効率や効果に関わって重要である。</p>
<p>就農など新たなことを始めるに当たっては、これくらいは知っているべきあるいは考えているはずという前提は置くべきではないであろう。</p>
<p>高温対策は、とくに夏季のハウス利用においては焦眉の急といえるので試験研究開発の加速を望みたい。</p>
<p>費用便益など経営面の分析は、最終年度（それに近い年度）を待たずに、大まかでもよいので展望をもって現場での実証を進めた方がよい。同時並行的に行うことが理想とみられる。</p>
<p>普及を図るにあたって、「動画によるマニュアル」を作成したことは非常に良い発想だと思う。先輩からの直接指導も重要であるが、「予習教材」として動画マニュアルがあれば、予め基本を学んだうえで指導を受けられるので、教育効果は格段に高くなる。この手法を他地区や他の作物などにもどんどん広げていってほしい。</p>
<p>夏秋ナス産地の活性化に向けて、新規部会員を定着させるためにさまざまな取り組みを実施していることに好感を持った。技術伝承の動画はいいアイデアで、日頃の農家との良好な関係があるからこそ協力してもらえたのだと思う。動画も作って終わりではなくクオリティをさらに上げてほしい。蟹江町鉢物部会の活動についても、会員と普及課との信頼関係があることを強く感じた。</p>
<p>改善の成功例は、農家同士のつながり、口コミで広がるが、それを裏付けるデータの提供を明確に農家に示し、一層の成果をあげてください。</p>
<p>新規会員の世話をするベテラン農業者の手助けを、普及指導員が継続し、さらなる成果をあげてほしい。</p>
<p>優良成果発表を伺い、生産者とのコミュニケーションを意識した普及・支援活動を実践いただいていることが十分理解できた。普及活動に至る背景、問題点、課題、改善策、数値等で成果を取りまとめ、さらに普及上の工夫した点などの説明がなされ、内容をよく理解することができた。</p>
<p>普及員が生産現場の問題点を的確に把握し改善策を考え、多くの関係者を巻き込み生産者より評価いただけていることが確認できた。</p>
<p>農家の手の届かない点を支えてくれる、相談に乗れる活動をしてほしい。</p>
<p>実施している意欲的な農家の実践を良き事例としてまとめ、小規模農業者や、新規就労者のテキストとして作成し使用することで、先に見える農業経営を体感できるのではないかと考えますので更なる検討を望みます。</p>
<p>ナスという消費者が日常的に口にする野菜を、商品として育てるご苦労に対するやりがいや、就農者にどう感じてもらうのか、また消費者に対しては、苗から商品として出荷するまでの工程などを理解し、野菜の単価に対する認識を新たにしたいので、広報方法などを検討していただきたいです。</p>

#### 4 その他

愛知県では、品種の奨励や作型の選定などを地帯別に俯瞰する姿勢があり、高く評価できる。市場競争のなかにおいて量をまとめることを優先して適地適作から県の指導方針が乖離することが全国的にみれば起きている。

評価員の会議でも出た話題であるが、「定年退職者で小遣い程度の収入でいい人」と「若手の就農者で十分な収入が必要な人」を区別して支援制度を組み立てるべきである。優先順位が高いのは后者である。「3年で生活が成り立つ」というビジネスモデルを作って示すことが必要であろう。

新規就農者を増やすことは継続的な課題だと思うが、若い人が農業に関心を持って、実際に就農するにはハードルが高い。国の強い施策が必要。これに対し、定年帰農は比較的、参入しやすいところであり、県の施策として帰農者をサポートしていけるのではないか。県独自の支援策を考えて「愛知方式」として打ち出してほしい。

全体に費用体効果、失敗例の記述が少なかった。

商標登録出願の支援などを積極的に行うことは農家にとって大きな助けになる。

## 5 地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

<p>米・麦・大豆の担い手をどうするか。古くて新しい課題とみられる。良くも悪くも土地利用型農業の土台であるので県農業全体に影響を及ぼすのではないか。</p>
<p>消費者の県農業への理解醸成</p>
<p>特に都会に於いては、農地の宅地への転用がどんどん進んでいる。役所の中では管轄が違うのであろうが、「食糧安全保障」の観点からも、関係各所と強力な話し合いが必要である。</p>
<p>ナス農家の現地視察では、モデル農家でもやはりナスだけでは経営が成り立たない実情を聞いた。これは現場だけではなく県や国にしっかり現状認識をしてもらう必要があり、そのための提言などを考えてほしい。消費者に対しても農家の顔が見えるようなアピール方法を検討してほしい。少しのPRの工夫で付加価値を上げることができるのではないか。</p>
<p>気候変動等により、従来の作物の栽培が困難になりつつある。それらに対応した指導をしていただくとありがたい。</p>
<p>農業振興に向けた課題を議論すると、地域単位に基づいた品目及び振興策の検討がなされると思う。県が定めた品目別推進方策に基づき、各普及での計画への落とし込み、実践をお願いする。</p>
<p>農業大学校の農起業支援ステーションにおいて、新規就農者の募集対応がなされている。地域農業の振興のためには、普及における新規就農者への支援体制（技術面・資金面）の充実が一層必要と考える。</p>
<p>農家のサポート事業。</p>
<p>農家の人材力に頼らない。どんな人たちであっても変わらず導ける力を持った普及員を目指すしかないと考えます。一定の運営手順をしっかりと研修し、普及員同士でロールプレイなどを十分行い実践に備える。（何をしなければならぬか、マニュアル作成が必要では？）</p>
<p>半面、普及員だけに負担を課すのではなく、組織として技術確立・活性化について外部専門家をチームの一員として迎える（コンサル・社労士・会計士等々）ことも必要になってくるのではないかと考えます。特に経営について見通しが持てるように。</p>

## 6 評価会議について意見（普及事業全般含む）

六次産業化や環境保全、食文化、消費者への理解醸成など普及が担う分野が広がり多様化している。しかしながら、普及事業の枠組みは農業改良助長法制定時と（人員や予算規模は別として）大きく変わっていないように見える。「普及」自体の捉え方、組織体制を見直す時に来ているのではないか。

評価会議では、選出された事例とその地域の農業が詳細に報告される。他方で普及事業全体の情報提供がなくなったので、「全般」をみることができない。発表された個別事例の評価か県の普及事業の全体評価か、曖昧になってきているように感じられる。

今後の普及活動においては、「事業計画の作成支援」を取り入れるべきである。「農業経営相談所」や「農業経営塾」などで出会う農家の多くは事業計画を考えていない。ただ「大きくしたい」「儲けたい」というだけの方が多いが、「何のために、いつまでに、どの程度」という具体的な計画がない限り実現しない。モチベーションを高め、継続を促すためにも、早急に取り入れる必要があると思う。

現地視察で得るところが大きかったので、評価会議では引き続き視察の機会を設けてほしい。

明確で的確な発言を積極的になさる先生方に感動した。

評価会議の開催回数の見直しは効率的でよいと思う一方で、初めて参加される方などにとっては事業全体を理解することが大変であったと思う。事前の説明は行われているとは思いますが、もう少し情報の提供がなされるとよいと思います。例えば、当会議内で普及事業の概要・計画内容などの説明する時間があればよいと考える。

第三者の立ち位置の意見を聞く場ですので仕方ありませんが、成果発表者と上席者だけが質問者に応対するのではなく、事務局がもう少し応答フォローし、質問者に正しい認識をしていただくようにしたほうがよいのではないかと思います。

職員に限られるなか、多くの生産者・業務対応が必要となっている。業務効率化の取り組みをどのように進めているのか実態を教えてください。

農家の現場の意見を聞き取り、何が問題なのかもっと調べてサポート体制整えてほしい。

新規就労者をむかえていくために、農業の重要性を社会にアピールしなければならないことになっていくと思います。戦略的に社会へ発信してください。

消費者への農業に対する理解を深めるアプローチ方法など、今後重要になると思います。こちらもすぐに着手すべきと考えます。単価が上がっても納得して購入してもらうために。